

【奄美市】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

文部科学省から示されている「令和の日本型教育」の中では、予測困難な時代を生き抜くために、児童生徒が、自ら「問い」を見付け、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図りながら、課題を解決する「学習者主体の授業」が求められている。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図るためには、ICT の利活用は不可欠である。また、本市教育行政の重点施策「地域に根ざしたふるさと教育～あまみの子どもたちを光に～」の中でも、「教育の情報化の推進」の中で「教育における ICT の効果的な活用推進」と「GIGA スクール構想の実現」の充実を目指している。

このようなことから、児童生徒の資質・能力を育成し、予測困難な時代を生き抜く「人」を育てるために、1 人 1 台端末の効果的な利活用を図っていききたい。

2 GIGA 第 1 期の総括

第 1 期の GIGA スクール構想として、本市では、令和 2 年度に本市の児童生徒、教職員に 1 人 1 台端末の整備をしてきた。また、全学校における通信ネットワーク環境を構築することで、ICT 端末の利活用の促進を図ってきた。

児童生徒は、授業支援ソフトを用いて、互いの考えを紹介したり、考えを整理・分類しながら「協働的な学び」の中で、新たな考えを創り出すことができています。

また、AI ドリルを用いて、自分の学びの実態に合わせながら、自分のペースで「個別最適な学び」に取り組むことができています。

さらに、1 人 1 台端末では、授業の様子を写真や動画で残す「学びのログ化」が可能になり、児童生徒が、既習事項と比較しながら、あらたな問いや考えを創り出すこともできています。

教職員への支援としては、毎年「奄美市 ICT スクールリーダー研修会」を実施し、学習 e ポータルや AI ドリル、授業支援ソフトの活用方法について研修を深めることができています。

また、運営支援としては、担当部署がネットワーク関係等のトラブルに随時対応したり、落下等に端末の故障も多々あったが、予備機で代替することで対応ができています。

3 1 人 1 台端末の利活用方策

本市では、OS の更新やサポートの期限等を考慮して、令和 7 年末に、端末の更新を行う予定である。

また、端末の更新に伴い、授業支援ソフトや AI ドリルも児童生徒の実態に応じて検討を行い「個別最適な学び」と「協働的な学びの一体化」を図りながら、「学習者主体の授業」を目指していく。

教職員に対しても、継続的な研修を実施し、目的に応じて教職員一人 1 人が ICT を活用できるような環境作りをしていく。

さらに、様々な事情により、教室での学習が困難な児童生徒に対しても、1 人 1 台端末を用いて、オンライン授業を実施したり、AI ドリルを用いて学習をしたりするなど、自分のペースに合わせた学習を行うなどの学習支援を行っていく。